



逆行性排尿時膀胱尿道造影を
受けられる患者さんへの説明文書

東京女子医科大学 泌尿器科

説明書

検査の名称	逆行性排尿時膀胱尿道造影
-------	--------------

説明項目

1. 診断名（病気の名前と進行度）

- 膀胱尿管逆流症や尿道狭窄、前立腺癌術後吻合部不全、透析による萎縮性膀胱、その他（ ）などが疑われます。

2. 病気の説明（どこに、なにがおきてどうなっているのか）

- 膀胱尿管逆流症：排尿時に尿管へ逆流してしまい、尿路感染を繰り返す。
- 尿道狭窄：尿道の一部が狭くなり、排尿時の痛みや排尿困難感があること。
- 前立腺癌術後吻合部不全：膀胱-尿道吻合部が不完全であり、尿が体内に漏れる状態。
- 透析による萎縮性膀胱：透析により膀胱が萎縮し、膀胱容量が低下していること。

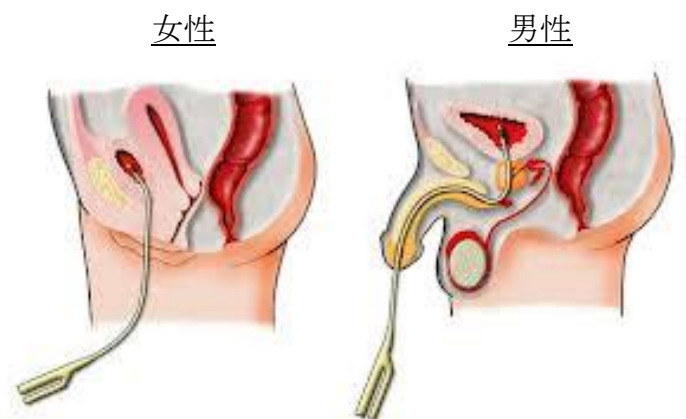
- （ ）： _____

3. 目的および必要性（なぜこの方法が提案されたのか）

- 上記を診断するために、膀胱・尿道の形態を評価することが望ましいと考えられます。

4. 方法（なにをどうするのか）

- 検査は外来透視室で施行します。
- 仰臥位の体勢になります。所要時間は30分程度です。
- 尿道の先から細い管（尿道カテーテル）を挿入し、先端を膀胱内に留置します。挿入時の潤滑剤として、麻酔成分入りのゼリー（キシロカインゼリー）を使用します。
- カテーテルから造影剤を含んだ生理食塩水をゆっくり注入します。排尿が我慢できるところまで注入し、カテーテルを抜去します。
- その後、坐位や立位の体勢に変更し、その場で排尿して頂きます。
- 検査中は適宜レントゲンを用いながら、膀胱・尿道の形態を評価します。



5. 受けた場合の予想される経過（期待されること）

- 検査結果は、外来にて主治医からご説明します。

6. 危険性および起こりうる合併症について（心配されることや副作用）

検査は安全に行われますが、下記のような合併症がおきることがあります。

- 軽度の疼痛・違和感：尿道カテーテル挿入や造影剤注入時に伴うことがあります。
- 感染：滅菌された器具を用いますが、検査後膀胱炎のような症状がでたり、前立腺炎・精巣上体炎を起こし熱が出る場合があります。
- 血尿：尿道がこすれたりして一時的に血尿がでることがあります。
- 造影剤自体の副作用：まれに注入された造影剤が少量血管内に入り、造影剤へのアレルギー反応が生じることがあります。

7. 合併症発生時の対処について（費用負担もふくめて）

- 合併症改善へ迅速に対応します。
- 感染：検査後数日抗生剤を内服していただきます。また、十分な水分補給を行って下さい。発熱した場合は点滴の抗生剤を使用することがあります。
- 血尿：ひどい場合は一時的に止血のための処置を行うことがあります。
- 造影剤アレルギー：症状をみて、抗アレルギー薬の投与など対処を行います。
- なお、合併症が発生した場合も、一般的には医療保険で対応いたします。

8. 受けない場合の予測される経過、代替手段（他の治療法）

- 排尿時膀胱造影検査の代替手段はありません。

9. 説明内容の理解と自由意思による同意承諾およびその取り消しについて

- いったん同意をされた場合でも、いつでも撤回することができます。やめる場合は、その旨を担当者へ連絡してください。
- この処置に同意されるかどうかは、患者様の意思が尊重されます。同意されない場合でも、不利益を受けることはありません。

逆行性排尿時膀胱尿道造影を受けられる患者さんへの説明文書
東京女子医科大学泌尿器科学教室
Department of urology, Tokyo women's Medical University.

以上の点について説明を受け、よく理解し、検査に同意します。

年 月 日 患者氏名：

患者家族氏名：

1)

2)

3)

その他、特に説明した内容

a)

b)

以上の点について、患者、患者家族に十分説明しました。

説明日： 年 月 日 施行予定日： 年 月 日

診療科名：

説明医師：